

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	高知県立大学	整理番号	M02
プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	南 裕子	プログラムコーディネーター	山田 覚

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、プログラム初年度に国公私立 5 大学（高知県立大学、兵庫県立大学、東京医科歯科大学、千葉大学、日本赤十字看護大学）による他に類を見ない共同災害看護学専攻を立ち上げ、「人間の安全保障」を基本理念に多様な災害看護能力を持つグローバルリーダー育成を目指したことは評価できる。今後も各大学の持ち味を生かしつつ減り張りの効いたカリキュラム構造の実現のための不断の改善を行うとともに、グローバルリーダーにふさわしい学位審査の在り方の更なる工夫を期待したい。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、当初の計画に沿ったものではあるが、学生の受入をプログラム採択 3 年度目に開始したため、専攻の理念とカリキュラム整備に迫られていたこともあり、就職・キャリアパス支援の取組が十分とは言えず、今後も努力が期待される。修了予定者の海外機関への長期のインターンシップは少なくほとんどが短期に留まると同時に、就職内定状況についても、当初希望していた国際機関等への内定が含まれていない。また、大学からのプログラム学生へのキャリアパスイメージの提示に関する取組に関して、学生の自立と自主性尊重の観点から否定的であり、キャリアパス構築にとって対応が不十分であると思われる。

事業の定着・発展については、既に 5 大学で共同災害看護学専攻を立ち上げており、支援期間終了後も学位プログラムを継続する組織体制は確実に構築されている。支援期間終了後のプログラム運営についても、運営財源の確保を含め、大学間で足並みを揃えプログラムを実施することが期待される。また、支援期間終了後は学生に対する直接的な経済的支援を打ち切り、学生の自助努力に委ねて奨学金・助成金申請を支援するという方針については、学生の獲得、入学後のインターンシップ派遣や海外交流等の大きな支障となり、事業の定着・発展にとって懸念が残る。大きな困難を乗り越えて構築した「共同災害看護学専攻」が、相互の信頼と支え合いにより災害看護の世界的拠点となるよう、5 大学が一丸となって取り組んでいくことが強く望まれる。

事後評価結果案に対する意見申立て及び対応

機 関 名	高知県立大学	整理番号	M02
プログラム名称	災害看護グローバルリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	南 裕子	プログラムコーディネーター	山田 覚

意見申立て内容	意見申立てへの対応
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第一段落)  「人間の安全保障」を基本理念に多様な災害看護能力を持つグローバルリーダー育成を目指したことは評価できる。今後は各大学の持ち味を生かしつつ減り張りの効いたカリキュラム構造の改善及びグローバルリーダーにふさわしい学位審査の在り方の更なる工夫を期待したい。</p> <p><b>【意見及び理由】</b>  各大学の持ち味を生かしたカリキュラム改正の検討はすでに行っており、来年度から施行するべく規程改正も行っているところである。これは現地調査時及びヒアリング時にも説明していることで、改めてのご指摘にはあたらないと考える。</p>	<p><b>【対応】</b>  以下のとおり修正する。</p> <p>今後も各大学の持ち味を生かしつつ減り張りの効いたカリキュラム構造の<u>実現のため</u>の<u>不断の改善を行うとともに</u>、<u>グローバルリーダーにふさわしい学位審査の在り方の更なる工夫を期待したい。</u></p> <p><b>【理由】</b>  平成31年度(2019年度)以降のカリキュラムについて、具体的な改正案を既に検討し、規程改正を行っていることは承知しているが、現在検討しているカリキュラム改正後も、本プログラムの理念を実現するため、カリキュラムの有効性や妥当性を検証し、不断の見直しが行われることが期待される。</p>
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第一段落)  今後は各大学の持ち味を生かしつつ減り張りの効いたカリキュラム構造の改善及び<u>グローバルリーダーにふさわしい学位審査の在り方の更なる工夫を期待したい。</u></p> <p><b>【意見及び理由】</b>  グローバルリーダーにふさわしい学位審査を、という指摘については、「学位授与」「学位審査」に関する見解の相違があることを申し上げたい。  本プログラムの立場は、論文投稿主義ではなく、学位プログラムの充実、厳格な学位審査体制の構築、ディプロマポリシーの考え方に基づいた学位授与を重視している。すなわち、以前から審査・評価部会の委員の方々は論文投稿主</p>	<p><b>【対応】</b>  原文のままとする。</p> <p><b>【理由】</b>  当該のコメントは、貴共同災害看護学専攻（以下、貴専攻と略す）の学位審査体制を否定するものではない。貴専攻の学位審査体制に投稿論文主義を追加することにより、学位の質の向上を期待することを含意したものである。学位審査の方式として、査読付き論文を要求する論文投稿主義は、学位論文の内容が、関連する学術コミュニティによる第三者評価を経たものであることを保証するも</p>

<p>義に基づく論文審査を採択するようにと主張されているが、本プログラムは学位審査のプロセスとそれに伴う規程等を整備し、厳格な学位論文の審査、学位授与を実施している。看護学分野での博士課程の学位審査については、諸外国では論文投稿主義ではなく、本プログラムの方法が普及している。学問分野によっては論文投稿主義が否定的な影響をもたらすこともある。</p> <p>また、本プログラムは、災害看護学のグローバルリーダー養成を目指し、1-2年次では充実したコースワークを履修した後、3年次から博士論文に繋がる研究を計画し始め、自分の研究課題を体系的に取り組んだ後で博士論文を提出する。そして、学位審査を受けてから1年以内に論文投稿ができるよう、修了後も支援していく予定である。</p> <p>本プログラムでは5大学で十分検討した上で論文投稿主義の方法は取らないことを理念としていることを説明してきたが、論文投稿主義がただ一つの方法ではなく、多様な考え方に寛容であることを求める。</p>	<p>のであり、今日では最も有力な審査方式となっている。</p> <p>貴専攻の方式による審査を経た博士論文が、学位授与後に査読付きの学会誌等の専門誌に掲載されることの保証はなく、懸念が生じるのはやむを得ない。論文投稿主義は、世界に通じる論文が博士課程の研究から生まれることを保証する方法であると同時に、学生がグローバルリーダーとして世界の舞台上で活躍する際の自覚と自信につながるものである。世界標準の人材を輩出するために、現在の博士論文審査方式の工夫、改善が行われることを期待する。</p>
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第二段落)</p> <p><u>専攻の理念とカリキュラム整備に迫われて就職・キャリアパス支援の取組に遅れが見られる。修了予定者の海外機関への長期のインターンシップは少なくほとんどが短期に留まると同時に、就職内定状況についても、当初希望していた国際機関等への内定が含まれていない。</u></p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p>本プログラムは、災害看護グローバルリーダーの養成プログラムであることから、開講以来、世界で活躍する災害分野のグローバルリーダーの講演会及びセミナーなどを開催し、学生たちにグローバルリーダーとはどのような働きと能力が必要であるかをイメージできるように教育してきた。また、個別に学生の希望に添った将来の道への指導は5大学で丁寧に行っている。従って、「就職・キャリアパス支援の取組に遅れが見られる」という指摘には当たらないと考える。なお、長期の海外機関へのインタ</p>	<p><b>【対応】</b></p> <p>以下のとおり修正する。</p> <p><u>専攻の理念とカリキュラム整備に迫られていたこともあり、就職・キャリアパス支援の取組が十分とは言えず、今後も努力が期待される。修了予定者の海外機関への長期のインターンシップは少なくほとんどが短期に留まると同時に、就職内定状況についても、当初希望していた国際機関等への内定が含まれていない。</u></p> <p><b>【理由】</b></p> <p>講演会及びセミナー等を開催しているが、就職・キャリアパスに特化した個別のイベントは少なく、数件に留まっている。また、学生へのアンケート結果においても、多くの学生が、修了後の進路に不安を抱えていることから、キャリアパスにつながる就職を支援する体制が十分に整っているとは言えない。また、海外機関への長期のインターンシップが少なかった事実については、誤認はなく、支援期間内に対応が可能であったと考えられることから、原文のままとする。</p>

<p>ーンシップがカリキュラムの過密さから難しかったのは事実であるが、カリキュラム改正によってそれが可能になる改善は行っていることは現地調査時及びヒアリング時でも説明している。</p>	
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第二段落)</p> <p>修了予定者の海外機関への長期のインターンシップは少なくほとんどが短期に留まると同時に、<u>就職内定状況についても、当初希望していた国際機関等への内定が含まれていない。</u></p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p>今年度修了する学生たちが国際機関に就職しないのは事実だが、国内の大学教員になってグローバルな活動を志向していることはヒアリング等でも説明してきた。国際機関ですぐに働き始めることだけがグローバルリーダーのキャリアパスではないと学生も教員も考えている。国際機関の正規就職のポジションは多くはないが、修了生の志向はグローバルにあることは確かであるので、就職内定先に国際機関がないというだけでこのような指摘を受けるのは納得できない。</p>	<p><b>【対応】</b></p> <p>原文のままとする。</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>1 期生が当初希望していた国際機関等への内定がなかったことについて誤認はなく、事実の摘示であるため、本項目の修正は行わない。</p>
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第二段落)</p> <p>就職内定状況についても、当初希望していた国際機関等への内定が含まれていない。また、<u>大学からのプログラム学生へのキャリアパスイメージの提示に関する取組に関して、学生の自立と自主性尊重の観点から否定的であり、キャリアパス構築にとって対応が不十分であると思われる。</u></p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p>先に示したようにキャリアパスイメージの支援は行っているため、なぜこのような指摘になるのか疑問である。キャリアパス構築の対応について審査・評価部会の委員からは「ガイドライン」を提示するように、と指摘されたが、現地調査時もヒアリングの時にも本プログラムとしては「ガイドラインの作成」は一つの方法であるかもしれないが、本プログラムには適切</p>	<p><b>【対応】</b></p> <p>原文のままとする。</p> <p><b>【理由】</b></p> <p>前記同様、就職・キャリアパス支援の取組については、各学生がインターンシップを通して個別にキャリアパスを検討するにあたっての情報提供等に留まり、組織的にキャリアパス支援を企画・運営しているとは見受けられず、また、学生へのアンケート結果からも、支援体制が十分に整っているとは言えない。</p>

<p>ではないと判断したことをお伝えした。審査・評価部会の委員のご意見通りにしなければ評価されないというのはプログラムの判断や決断の自由を阻むものではないかと考える。</p>	
<p><b>【申立て箇所】</b></p> <p>(第三段落)</p> <p>しかし、支援期間終了後のプログラム運営について、<u>5大学間の足並みの乱れが懸念される。</u>また、支援期間終了後は学生に対する直接的な経済的支援を打ち切り、</p> <p><b>【意見及び理由】</b></p> <p>「5大学間の足並みの乱れが懸念される」という根拠について委員からお示しいただきたい。本プログラムは国公立大学の違いをお互いに理解しあいながら緻密な検討を重ねてきて、現在に至っている。災害看護学のグローバルリーダー育成の重要性をお互いに認識しているからこそ、これからも継続すべく意志を確認しあっている。従って、この評価は本プログラムが努力してきたことを無視するものであり、事実と反していると考えます。</p>	<p><b>【対応】</b></p> <p>以下のとおり修正する。</p> <p>支援期間終了後のプログラム運営についても、<u>運営財源の確保を含め、大学間で足並みを揃えプログラムを実施することが期待される。</u></p> <p><b>【理由】</b></p> <p>支援期間終了後のカリキュラムの継続等については、5大学の学長会議によって運営体制を決定するとしているものの、財政は各大学の中で工面するものとしており、具体的な予算の確保状況等が不明瞭である。財政状況は各大学によって異なるため、海外長期インターンシップなどの、より経済的な支援が要されるカリキュラム内容の実施等については、本プログラムとして足並みを揃えて実施することが期待される。</p>